

岩手・宮城内陸地震からの復興へ向けて

県土整備部長 佐藤 文夫



岩手・宮城内陸地震から1ヶ月が経ちました。

今回の地震は、最大震度6強という本県観測史上かつてない地震となりました。改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、負傷された方々、現在も避難生活をよぎなくされている皆様をはじめ被災者の皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

今回の地震では、県内外から様々なご支援ご協力をいただきました。岩手県建設業協会の皆様には、地震発生直後から応急復旧に欠かせない重機搬入路の整備などに献身的にご尽力をいただきました。また、国土交通省におかれましては、磐井川の市野々原地区と産女川地区において、いち早く直轄砂防災害関連緊急事業を採択していただきました。このように、発災直後から地元、国、そして各界の皆様迅速にそして精力的に災害復旧にあたっていただいておりますことに、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。

本県では、人的な被害に加えて、住宅、道路、橋梁、斜面崩落による「せきとめ湖」の発生など、被害総額は294億円余となり、そのうち土木関係は、一般国道342号の一関市巖美町から須川温泉までの区間などで165億円余と最も大きな被害を受けました。

災害復旧にあたっては、地震で被災された方々が元の生活に戻ることが復旧の目標であることを念頭に全力を挙げて取り組んでいますが、道路をはじめとした社会資本整備が、住民生活や地域産業を支えるうえで、いかに重要であるかを改めて痛感しているところです。

地域の皆様をはじめ、地元市、そして国と連携を図りながら、まずこの災害を乗り越え、明るい希望が持てるよう努力して参りたいと考えております。



冬柴国土交通大臣に被害状況の説明をする佐藤部長
(6/15・地震発生翌日、一関市にて)



冬柴国土交通大臣とヘリ視察



矢びつダム付近の崩落状況